

件名： 第1回 新技術活用ビジネスモデル検討委員会
日時： 2008年6月19日(木) 13:25~16:05
場所： 航空会館 506会議室

1. 開会
2. 挨拶(略)
3. 出席者紹介(略)
4. 委員会規約について

決定事項

- ・「資料1 新技術活用ビジネスモデル検討委員会規約(案)」が承認された。

5. 座長選出

決定事項

- ・座長は、松田友義委員に決定した。

6. 審議

(1) 委員会の計画

事務局：事業の趣旨、委員会の計画を説明。(参考資料「(新技術活用ビジネスモデルの実証)公募について」、資料2「新技術活用ビジネスモデル検討委員会の計画」、資料3「スケジュール表」)

委員A：6月の実施計画書に関するヒアリングは誰が実施するのか？

事務局：事務局が担当する。

委員A：ビジネスモデルの実証なので、実証期間が1ヶ月間では足りない。

事務局：各団体の実施計画に沿って、個別にみていきたい。

農水省：これまで3ヵ年大田や築地市場でRFIDをつけて実証試験をしてきて、生鮮はハードルが非常に高いというのが正直な感想だ。色々な要因はあるが、食品、特に生鮮は難しいので、20年度だけで完璧なビジネスモデルを世の中に出すのは難しい。5年かけて色々な実証試験、成果を積み重ねて、食品流通が効率化されビジネスモデルが構築されるのではないかと考えている。

そこで、今年度は、これまでのように実証実験をやり報告書を出すだけで終わるのではなく、第三者的に立場からこの委員会でアドバイス・評価して報告書にまとめてほしい。それが、波及してビジネスモデルが構築されれば、生産者、消費者、流通業者にとっても便益が出てくると思う。実証実験をフィールドでやっていると視野が狭くなるし、他の地区のことはわからないので、先生方には客観的にご助言いただきたい。

委員A：公示と委員会の目的には、「ビジネスモデル(最適な活用方法、費用対効果、…)」と書いてあるが、最適な活用方法と費用対効果が別のもので書かれている。すでに出てしまっている文書なのでこのとおりでもよいが、本来は一体的に捉えるべき。

決定事項

- ・委員会の計画が承認された。

(2) 実証団体の実施計画の検討

事務局：資料を説明。(資料4-1「実施団体の実施計画のチェック方針(案)」、資料4-2「実証団体への依頼事項」)

委員A：「4成果報告」の部分は、事務的にわかることなので、今日の委員会で検討する必要はないのではないかと。

事務局：了解した。事務局ですでにチェックしてあるので、基本的にそのまま各団体に指摘する。

委員A：「2.2 システム設計の効率的・効果的」とは、どう判断したらよいのか。自社でやれ、とか外注しろとかなのか。

事務局：それもあつた。そのほかにも、例えば、「この現場でこのタグを使うことは設計上よくない」「標準的なものを使った方がよい」といったアドバイスもあり得ると思う。

委員A：実証団体の実施計画の検討について、基本的な方針はこれでよいかと。

委員一同：了承。

決定事項

- ・実施団体の実施計画のチェック方針(案)が承認された。

* 各実証団体の実施計画(案)について

※各実証団体への指摘事項は別紙「実施計画(案)の指摘事項」を参照。

個別の団体への指摘事項については、この議事録では省略する。

全団体に共通した委員からのアドバイス

- ・できるだけ実証実験の期間を長く取れるよう、可能であれば前倒しで取り組んでほしい。
- ・実証試験から効果を定量的に示しビジネスにつなげられるように、費用対効果の検証等をしっかりと実施してほしい。
- ・これまでの実証事例・導入事例をよく把握して、設計に活かしてほしい。

(3) その他

* 今後の予定

- ・ご指摘いただいた事項は、各団体へ伝えて改善し、来週農林水産省へ提出してもらう。
- ・どのように実施計画が修正されたかは、事務局から委員へ(メールで)ご報告する。
- ・次回、第2回委員会(中間報告)は10月の予定。日が近づいたら日程調整する。
- ・さらに第2回委員会後(11月頃)に現地ヒアリングを予定している。事務局に同行していただく委員は第2回委員会後に決めたいと思うので、宜しくお願ひしたい。

*** 情報共有のための Wiki について**

- ・ 委員および事務局、農林水産省、実証団体との間で情報共有するために「Wiki」を使用したい。
- ・ 掲載する内容は、委員会資料や議事録、ルール、これまでの実証実験の報告書のリンク集など。
- ・ ログインの方法は、メールアドレスとパスワードを入力する。(詳細は後でメールで連絡)

7. 閉会

以上